

第12回太田川河川整備懇談会 議事要旨

- 近年、製造品出荷額が増加傾向となっているなど、下流域を洪水から守ることの重要性が高まっている。また、太田川本川は、近年頻発化・激甚化する降雨状況を鑑み、平成30年7月豪雨ならびに気候変動の状況をふまえた新たな整備目標を設定する必要がある。
- 太田川本川の新たな整備目標の考え方として、気候変動をふまえた流量および確率規模による多面的な妥当性を確認し、設定する必要がある。
- 本川上流域が多雨といった太田川流域の特性を踏まえて、既設の温井ダム、電力ダムの活用など、既存ストックを有効活用した対策をコスト、実現性、環境面等を考慮して検討する必要がある。
- 三篠川の河道掘削においては、瀬・淵・瀬^{とろ}の形成および新たな生物相の形成、魚種の増加をイメージして環境配慮事項を整理する必要がある。
- 防災減災に関する情報発信等のソフト施策の取組みについて、適切に河川整備計画本文へ反映する必要がある。